



子宮頸がんの検診の際、「子宮体がん」「卵巣がん」も検査できます。

子宮体がんは患者が増え、頸がんと同程度になりました。以前から欧米は体がんが多く、食生活が欧米化したことが要因とされます。患者は五十〜六十代が中心です。

体がんの症状となる月経と無関係の出血や、閉経後の出血など不正出血があった場合は、早めの受診が早期発見につなが

②9 子宮体がん・卵巣がん検診(婦人科)

子宮体がん、卵巣がんの検査に使う超音波(エコー)検査装置は名古屋市中区の中日病院で



中日病院 名古屋市中区丸の内3の12の3。☎中日病院=052(961)2491

察します。異常に分厚くなっているれば、がんが疑われます。

同様に五十〜六十代の患者が多い卵巣がんは、自覚症状がないので注意が必要です。卵巣は子宮の両脇にあり、腹部にしこりなど違和感があれば早めの受診が大切です。一般の診察で見つけるのは難しいですが、婦人科での内診では五センチ以上、婦人科超音波検査では二センチ以上の腫瘍があれば発見できます。(貝田清隆 婦人科部長・談)

りません。頸がん検診でも奥の方の子宮体部の内膜最近六カ月以内に不正出血があったかどうかを確認します。がんが見つかる必要と除去手術などが不要になります。早期発見できれば治療できます。子宮入り口に発生する頸がんとは違い、体がんは

早期発見 早め受診大事